

(令和元年 9 月試験研究業務月報)

タスクチーム活動：『紫ずきん』の種子生産技術の確立と普及

情 報

『紫ずきん』の現地種子生産技術の確立に向けて

京都府オリジナルのエダマメである『紫ずきん』の種子は、現在、原種農場と北海道で生産していますが、近年の高温や強い台風の接近などにより減収や発芽率低下が起こり、良質な種子の確保が難しくなっています。そこで、リスク分散による種子量確保のため、府内の現地ほ場において安定的に種子生産ができる技術確立が求められています。これまでに当センターでは、エダマメ作より遅播きの 7 月播種と、地温上昇の抑制と土壌水分保持のための白色マルチ栽培※による『紫ずきん』の良質種子生産技術を開発しました。

そこで本年度は、これら技術の実証のため、普及センターや研究機関等によるタスクチーム活動において、現地ほ場での種子生産に取り組んでいます。現在までは順調に生育しており、今後は、収穫後に収量および発芽率調査を行い、種子生産技術のマニュアルを作成し、種子の安定生産に役立てます。

※マルチ栽培：土壌水分の維持や地温のコントロール、雑草防除を目的に、作物を植えた地表面をポリエチレンフィルムなどの資材で覆って行う栽培



ほ場巡回において生産者と意見交換（9 月 19 日撮影）